

北海道銀杏会 第33回講演会

日時 2019年2月14日(水) 18時30分～20時30分

場所 ホテルサンルート札幌3階 「宗谷」

講師 株式会社北海道融雪研究所 代表取締役 岩本 欣也 様

本日は、株式会社北海道融雪研究所代表取締役 岩本欣也様を講師にお迎えし、「定山溪鉄道の歴史」～大都市札幌をつくった鉄道をたどる～と題してご講演いただきました。

定山溪鉄道は、1969年の廃止から既に50年の時を経ており、実際に列車に乗車した経験のある参加者は僅かでしたが、乗車経験のない参加者も遠く記憶を辿り、定鉄バスや札幌駅ゼロ番線の思い出に重ねて、講演後の質疑応答も大変盛り上がりしました。あらためて演題の「大都市札幌をつくった…」というサブタイトルへの想いが心に響きました。ご講演いただきました岩本様と参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

〈ご講演の概要〉

1. 定山溪鉄道の歴史

- (1) 定山溪鉄道は大正初期に、定山溪温泉への旅客輸送や、石切山近辺の石材、豊平川流域の木材、豊羽鉱山の鉱石などの運搬を目的として計画されました。
- (2) 当初の計画では当事石材の切出しで栄えた石山から現石山通に沿って札幌へ向かう路線が想定されていたものが、まだ治水が不十分であった豊平川の氾濫による路線被害を回避するために豊平川東岸に沿って北上し、また機関車の噴煙の影響を懸念した平岸のりんご農園経営者らの反対により、平岸の農園を大きく迂回して豊平にいたる路線となりました。
- (2) 1915年には事業主体の定山溪鉄道株式会社が設立され、1918年に営業運転を開始。その後定山溪温泉の発展を支え、戦後の定山溪温泉の繁栄とともに業績も進展。全盛期を迎えました。
- (3) 1957年には、定山溪鉄道の躍進振りが東急電鉄創始者である五島慶太氏の目に止まり、同氏によって株式が買収され東急電鉄の傘下に入ることとなりました。
- (4) 五島慶太氏は定山溪鉄道を江別まで延伸し、夕張鉄道とつなぐなど遠大な計画を持っていたようですが、まもなく同氏が亡くなり計画は頓挫。
- (5) その頃より乗用車やトラック輸送の増加とともに国道をまたぐ踏切が交通の障害になり始めたこと、踏切事故が多発したこと、札幌オリンピックに向けて札幌市による地下鉄建設が計画されたことなどの諸事情により、残念ながら定山溪鉄道は1969年に廃線されることとなり、多くの市民に惜しまれながら四半世紀にわたるその歴史に幕を閉じました。

2. 「大都市札幌をつくった鉄道」～定山溪鉄道の果たした役割

- (1) まだ「馬鉄」と呼ばれた馬車鉄道しかなかった時代に、豊平川に沿って豊平から石山、定山溪を結び、定山溪温泉への旅客や石材、木材などの貨物の輸送を通じて定山溪温泉の隆盛や札幌の発展に大きく貢献。
- (2) 沿線に札幌慈恵女子高校を誘致し慈恵学園停留場が開設され通学列車として多くの女学生の通学の足となるなど、沿線開発にも貢献。
- (3) 後には札幌駅ゼロ番線への乗入が始まり、札幌駅と定山溪を直結する鉄路となった。
- (4) 1932年には早くも札幌駅 - 定山溪 - 豊平峡間をつなぐ乗合バスを開業し鉄路と並存。戦後再開したバス事業は、鉄道の廃線後も順調に発展し、現在のバス路線網となった。

3. おわりに

講演では、講師の出演したNHKの「北海道 LOVE テレビ」の録画や、当事のたいへん珍

しい、そのいくつかには幼少時代の講師ご自身も登場する貴重な画像を数多くご披露いただきました。また講師の先々代が定山溪鉄道の経営の要職にあった経緯から当時の経営に関する関係者ならではの貴重な証言も交え、講師の熱い思いにあふれたご講演となりました。

大都市札幌の草創期の様子や、定山溪鉄道の建設計画から営業運転の開始、そして隆盛から終焉への物語を縦糸に、一世紀におよぶ北都札幌の発展の歴史を振り返る、得がたい機会をいただきました。あらためて講師に感謝申し上げたいと思います。

(文責 藤井文世)